

ホームページ掲載原稿案について

《全体の構成イメージ》※適宜イラストを入れる

○障害特性に応じた情報保障

◇ ○○障害

・情報保障ツールの紹介

・具体例

➤ 日常生活

- ・(困りごと) ⇒ (対応の例) ※1～3事例を想定

イラスト

➤ 会議・イベント

- ・(困りごと) ⇒ (対応の例)

イラスト

➤ 文書・HP作成

- ・(困りごと) ⇒ (対応の例)

イラスト

- ・参考情報 ※適宜追加する

○東京都手話言語条例

○障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法

○障害特性に応じた情報保障

◇ 視覚障害

点字（参考：日本点字委員会HP）

- ・点字は、目が見えない人が指で読む文字です。たて3点、横2点の6点を1マスとして、五十音や数字、アルファベットなどを表します。データを点字化するには、点字プリンターなどを使います。

拡大文字

- ・拡大文字は、データの文字やイラストを拡大して見やすくすることです。「拡大文字版」としてデータ提供します。

テキストデータ

- ・テキストデータは、データの文字やイラストをテキスト形式で作成する方法で、パソコンの音声読み上げ機能（スクリーンリーダー）を使って内容を把握できます。

デイジー

- ・デイジーは、デイジー(DAISY)という音声媒体にデータを変換する方法です。専用の再生機や専用ソフトをインストールしたパソコンによってディスクを再生し、内容を把握します。

音声コード

- ・QRコードと同じ印刷物上の切手大の二次元コードで、活字文字読み上げ装置やアプリなどで読み取ると、文書を音声に変換して読み上げます。
- ・音声コードを添付した印刷物には必ず切り欠きを入れる必要があります。

<具体例>

➤ 日常生活

- ・よく見えないため、感染防止のためのレイアウトやルールの変更がわかりづらい（透明アクリル板の設置個所、消毒・体温測定の実施、営業時間の変更等）。
- ⇒・必要に応じてレイアウトやルールの変更などについて、口頭や店内放送等にて説明する。
- ・事前にホームページ等で周知する。周知する際は、視覚障害があっても読みやすいようにテキストデータも活用する。
- ・困っていることについて相談できる窓口を設置する。

- ・視覚障害者にとっては、代筆・代読もコミュニケーション手段として欠かせない。

⇒本人の希望を踏まえて、職員が代読・代筆をするようにした。特に代筆の場合には、複数の職員で確認するようにしている。

※代筆・代読等を行う場合は、守秘義務を念頭において、対応することが必要です。

- ・インターネットの通信販売で商品を注文したところ、PDF形式の確認書類がメール送付されたが、その記載内容が画像として情報認識されており、読み上げソフトを使用することができない。

⇒印刷した確認書類をスキャナーで読み込んでPDF形式に変換していたが、テキスト情報が残るように、パソコン上で形式変換したものを送付した。

- ・所属クラスをはじめ音楽室や美術室など様々な教室を利用するが、教室を移動するときに迷ってしまうことがある。

⇒教室の用途が分かるように、各教室のドアのところに点字ラベルで教室名や教室番号を表記した。

➤ 会議・イベント

- ・会議資料の確認に時間を要する。

⇒音声ソフト等で読みやすいようワードやテキストデータ形式で、事前に資料を送付した。

- ・オンライン会議で、誰が話しているかが分かりにくい。

⇒発言は1人ずつ、ゆっくりはっきり行う。発言者がわかるよう最初に名乗る。

- ・客席が遠いと見えにくい。

⇒申出に応じてスクリーンがよく見える席を確保し案内した。

➤ 文書・HP作成

- ・通常の紙の印刷物では内容が分からない。

⇒説明文書や封筒について、点字版、拡大文字版、デイジー版、音声コード化など、本人の希望の方法で情報提供を行う。

- ・通常のテスト問題用紙では、印刷された文字が小さくて、弱視なので読むことができない。

⇒テスト問題用紙の拡大文字版を作成した。また、拡大鏡などの補助具を使用できることとした。

- ・ホームページで、文字や色が見えづらい、文字の点滅などがあってホームページの読み上げソフト等でうまく読み上げができず、内容が分かりにくい。

⇒・画像等を張り付ける場合は、説明用のテキストを作成する。

- ・誰にとっても利用しやすいホームページとなるよう、ウェブアクセシビリティの JIS 規格「高齢者・障害者等配慮設計指針ー 情報通信における機器、ソフトウェア及びサービスー 第 3 部：ウェブコンテンツ (JIS X 8341-3)」を参照し、レイアウト等を行う。

- ・ユニバーサルデザインフォントを用いたり、カラーユニバーサルデザインに配慮する。

- ・ユーザーが文字を拡大したり、背景色を変更できる設定にする。

◇ 聴覚障害

手話

- ・手話は、目で見てわかる方法で話ができる「見ることば」です。
- ・手話は、ただ手を動かすだけではなく、表情も用いて、動きの大小、スピード、位置関係などにより豊かな表現をします。日本語とは異なる独自の文法を持つ言語です。日本語を手や指、表情によって表現する方法もあります。

（日本語）山と海のどちらに行きたいですか？

（手 話）山／海／行き・たい／どちら（問いかけの表情）

⇒サイト内東京都手話言語条例ページへリンク

手書き文字

手のひらに、指先等でひらがなやカタカナ、漢字等を書いて言葉を伝えること。

手話通訳派遣（※参考 社福）聴覚障害者情報文化センターHP）

- ・手話により聴覚障害者の方等とその他の方の意思疎通を仲介することを「手話通訳」といいます。
- ・手話通訳に必要な知識や技術等を習得し、地域において手話通訳活動を行う人を「手話通訳者」といいます。
- ・都内各区市町村では、お住まいの聴覚障害者の方に対し、手話通訳を派遣する事業を行っています（※詳しくは、お住まいの区市町村にお尋ねください）。
- ・その他、手話通訳者を派遣する会社があります。イベントなどを運営する際に、聴覚障害の方への情報保障のために、手話通訳を派遣する会社に派遣を依頼することができます。

要約筆記（参考：東京手話通訳等派遣センターHP）

- ・話の意図をつかんで要約し、手書き・パソコンにて文字におこし、聴覚障害者の方に伝える方法です。
- ・大会場などで、音声に合わせて内容を要約した文字をスクリーンに投影する「全体投影」と、聴覚障害者の隣に座り、音声文字にして伝える「ノートテイク」の2つの手法があります。

電話リレーサービス

- ・きこえない人ときこえる人とを、オペレーターが「手話」や「文字」と「音声」とを通訳することにより、即時双方向につなぐサービスです。
- ・令和2年6月、「聴覚障害者等による電話の利用の円滑化に関する法律（令和

2 年法律第 53 号)」が制定（同年 12 月 1 日施行）され、公共インフラとしての電話リレーサービスが制度化されました。

⇒電話リレーサービスへリンク <https://nftrs.or.jp/>

ヒアリンググループ（磁気グループ）

- ・ ヒアリンググループとは、補聴器や人工内耳を使っている中途失聴難聴者の方向けの設備で、補聴器や人工内耳の音質が良くなる設備です。
- ・ 建設施工時にワイヤーを付ける「常設型」と、持ち運び可能なアンプ・ワイヤーを設置する「移動型」があります。

コミュニケーションボード（参考：東京都障害者 IT 地域支援センターHP）

- ・ IT 機器を使わず、文字盤や分かりやすいイラストを指さしながら意思を伝えることができるコミュニケーションツールです。
- ・ イラストや文字を指さしてコミュニケーションをすることで、障害者の方の意思や要望を確認することができるものや、筆談をするためのボードなどがあります。

災害時バンダナ

- ・ 災害時に身に着けることで、必要な支援や情報保障を受けやすくすることができます。
- ・ 様々な自治体で作成されており、聴覚障害者に限らず、支援が必要な障害者の方が着用できるバンダナが提供されています。

<具体例>

➤ 日常生活

- ・ 筆談をする際、内容を全て文章で説明すればよいと誤解されている。

⇒要点をまとめて筆談する。必要に応じて、図やイラストのコミュニケーションボードなど言葉以外の情報も用いて、視覚的に情報が入手できるようにする。

○：文章の良い例

×：悪い例

チケット申込み ➡ 12/15 ～
※申込み方法は、12/5 ～問い合わせOK
問い合わせ先：当店

チケットの申込みは 12 月 15 日から始まりますが、申込み方法については 12 月 5 日に発表されますので、5 日以降に当店に問い合わせてください。

- ・飲食店に入ったが、混雑状況や空席状況が分からない。店員が声をかけてくれても聞きとれないことがあり困ってしまう。

⇒店員がそばまで行き、手のひらに「○」（空席がある）」か「×」（空席がない）かを指で書いてお知らせした。また、空席がある場合には、店員がそこまで案内した。

- ・難聴がある影響で、授業を聞くこととノートを書くことの両立が難しいときがある。

⇒授業の撮影は禁止しているが、黒板の撮影を認めることとした。

- ・コミュニケーションの際、口の動きや表情等を参考にしているため、話しかけている内容を理解するのが難しい。

⇒・筆談で対応可能であることを表示して、筆談用具や定型的なやり取りをまとめたコミュニケーションボードを用意し、音声以外の方法で対応する。

- ・透明マスクやフェイスシールド、透明アクリル板等を活用して、口の動きが見えるようゆっくり、はっきりと伝える。

➤ 会議・イベント

- ・説明者の話が聞こえにくく、内容を知ることができない。

⇒・申込み受付の際に、必要な配慮を確認し、手話通訳等派遣センター等に連絡して、手話通訳や要約筆記者の手配をする。その際、手話通訳者の立ち位置や照明の加減等も配慮する。

- ・聴力を補うためのヒアリングループ（磁気ループ）を設置する。

- ・オンライン会議で、手話通訳者と資料を同時に見ることが難しい。

⇒・資料を事前に送付する。

- ・要約筆記の利用を検討する。

- ・チャット機能を活用し、情報保障を行う。

- ・多人数の参加者がいる会議では、難聴により誰が発言しているのか区別しづらく、会議の流れが分からなくなってしまう。

⇒複数の発言が交錯しないように一人ずつ発言することとし、発言前にはその都度手を挙げて名乗るようにした。

➤ ホームページ作成

- ・ホームページに掲載されている動画について、音声聞こえないので内容がよく分からない。

⇒動画を作成するときには、字幕を表示できる機能を追加した。

➤ 災害時

- ・災害などがあってもアナウンスが聞こえないので状況判断が難しく、周囲の動きを見て行動するしかない。

⇒・掲示板やホワイトボードなどを用いて、アナウンス内容を視覚化してお知らせするようにする。

- ・公的機関などで配布されている「災害時バンダナ」を取り寄せて、非常時に着用できるようにする。

◇ 肢体不自由

<具体例>

➤ 日常生活

- ・図書館を利用するときに、蔵書の検索機を操作できないので、どこに本があるのか探しづらい。

⇒要望に沿って職員が検索機を操作したり、手が届かない位置にある場合は代わりに取ってくるなどして、読みたい本を探せるようにした。

- ・手続きに必要な書類を取りに来るように言われたが、取りに行くのが難しい。

⇒本人の要望に応じて、電子データや郵送にて書類送付する。

◇ 内部障害

<具体例>

➤ 日常生活

- ・講演会に参加していたら、途中で体調が悪くなった。

⇒別室を用意し、講演会の様子をビデオ中継した。

- ・心臓にペースメーカーを入れているため、お店でのタブレットでの注文ができない・危ない。

⇒ペースメーカーの方にとっては、電磁波の影響を受けて危険な場合があることを理解し、本人の要望に基づいて必要な配慮をするとともに、紙メニューなど別の方法で注文を取る。

◇ 難病

<具体例>

➤ 日常生活・会議・イベント

- ・全身に力が入らなくなっていく病気があり、紙資料ではページをめくるのが大変で時間を要する。

⇒本人の要望に応じて、電子データで資料提供する。

☆ 知的障害、精神障害、発達障害

ルビ版・分かりやすい版の作成

- ・「ルビ版」は、漢字にひらがなのルビを振って、漢字がわからない方も読めるようにした資料を指します。
- ・「分かりやすい版」は、図やイラストを使用したり、簡単な言葉に書き換えることで、分かりやすくした資料を指します。

コミュニケーションボード（参考：東京都障害者 IT 地域支援センターHP）

- ・IT 機器を使わず、文字盤や分かりやすいイラストを指さしながら意思を伝えることができるコミュニケーションツールです。
- ・イラストや文字を指さしてコミュニケーションをすることで、障害者の方の意思や要望を確認することができるものや、筆談をするためのボードなどがあります。

イエローカード

- ・「カードルール」の1つで、「ちょっと待って、もう少しゆっくり分かりやすく」を意味します。レッドカード（パーの手の絵、「ストップしてください」の意）、ブルーカード（指がグッドサイン、「同意します、分かります」の意）のカードもあります。
- ・国際的な知的障害者団体等で使われはじめ、日本では、平成21年、障害者権利条約の締結に向けての会議で初めて導入されました。

<具体例>

➤ 日常生活

- ・言葉だけだと、内容を十分に理解できないで混乱してしまうことがある。
- ⇒・身振り手振りやコミュニケーションボードなども用いて内容を伝えた。
- ・一度に多くの情報が入ると混乱する場合があるので、伝える情報は紙に書くなどして整理してゆっくり具体的に伝える。
-
- ・周囲に多数の生徒がいる環境だと集中できなくなってしまう。大教室で行われる講義について、別室で受けられるようにしてほしい。
- ⇒大教室にカメラ、別室にモニターを設置し、別室において受講できるようにした。

➤ 会議・イベント

- ・説明の速さについていけず、混乱してしまうことがある。

⇒・説明内容を要約したり、分かりやすい言葉に置き換えて、補足説明を行う。

- ・事前に口頭で説明し、意見を聞く場を設ける。
- ・会議の情報がきちんと守られることを前提に、理解を援助する者の同席を認める。「イエローカード」を用意する。

➤ 文書作成

- ・書類が読めなかったり、文章が難しく内容が理解しにくいことがある。

⇒・記入例を作成し、どこに、何を記載すればよいのか分かりやすくする。

- ・必要に応じて、漢字に、ひらがなのルビを振った資料や、図やイラストを使用した資料、分かりやすい版の資料を作成する。

- ・メニューが字だけで書かれていると、内容を把握することがなかなか難しい。

⇒メニューに写真を載せるとともに、店員が分かりやすく説明した。

➤ 災害時

- ・予定外のことなどで不安になったり、パニックになったりすることがあり、災害時にも同様のことが予想される。

⇒避難場所や避難時の注意点などを分かりやすく伝える掲示をした。また、学校内の避難経路は分かりやすいように、生徒の目線の位置に目印を設置し、避難訓練の際も活用して避難するようにした。

◇ 高次脳機能障害

＜具体例＞

◇ 日常生活

- ・「先ほど伝えたことを忘れて勝手な行動をしている」と注意されると、「聞いていなかった、知らない」と逆に怒ってしまうことがある。

⇒口頭でのやりとりは言った、言わないとトラブルのもとになりやすいので、メモに書いて互いに確認するようにした。

東京都手話言語条例

目的

○東京都では、手話は言語であるという認識の下、手話を必要とする方の意思疎通を行う権利が尊重され、安心して生活することができる共生社会の実現を目指し、「東京都手話言語条例」を定め、令和4年9月1日に施行しました。

条例のポイント

○東京都が取り組むこと

- ・手話に対する理解の促進、手話の普及
- ・手話を使用しやすい環境の整備
- ・手話を用いた都政情報の発信

○様々な場面で、手話を必要とする方のための施策を行っていきます。

- ・都民、事業者のみなさんが手話を学習する機会の確保
- ・相談支援体制の整備
- ・手話通訳者の派遣、確保・養成
- ・学校における支援
- ・医療等サービスにおける環境整備
- ・災害時における措置

都民・事業者のみなさんは、条例の目的である共生社会の実現に向けて手話や手話を必要とする方への理解を深めていただきますようお願いします。

《福祉保健局ホームページ》（参考）東京都手話言語条例について

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shougai/shougai_shisaku/shuwagengo_jourei.html

（参考）デジタル技術を活用した聴覚障害者コミュニケーション支援事業

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/ictdeaf/index.html>

障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法

・情報アクセシビリティとは

年齢や障害の有無等に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できることをいいます。

・障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法

○令和4年5月に「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法（正式名称「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律」）が成立・施行されました。

○障害者による情報の取得利用・意思疎通に関する施策を総合的に推進し、共生社会の実現に資することを目指しています。

○障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法では、全ての障害者があらゆる分野の活動に参加するためには、情報の十分な取得し利用すること、円滑な意思疎通をすることが極めて重要という考えに基づいて、下記4つの基本理念を掲げています。

- ① 障害の種類・程度に応じた手段を選択できるようにすること
- ② 日常生活・社会生活を営んでいる地域にかかわらず等しく情報取得等ができるようにすること
- ③ 障害者でない方と同じ内容の情報を、同一時点で取得できるようにすること
- ④ 高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用を通じて行うこと

こうした点に留意しながら、障害特性に応じた情報保障を行っていきましょう。

《内閣府ホームページ》（参考）障害者による情報の取得利用・意思疎通に係る施策の推進

<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/jouhousyutoku.html>